

「京都いのちの日」を機縁に

宗教者が京都市内を行進

総合研究所が共催し3月4日に5回目

宗教や宗派を超えてした。

自死・自殺の問題に取り組み「京都いのちの日」宗教者プロジェクト実行委員会が3月4日、「LIFE WALK 2020」のしんで行進を想う宗教者の行進」を京都市内で実施

たメッセージボードを掲げながら、本山修験

人々の健康、戦争や紛争と密接に関連していることなどを紹介。今井さんは「環境への被害は最も貧しい人たちに多大な苦しみを与える構造になっている。一人一人の認識の転換が必要」と訴えた。

宗総本山の聖護院門跡（京都市左京区）から方トリック河原町教会（同市中京区）までの約3キロを歩いた（写真）。この取り組みは、自殺問題への関心や理解を深めようと京都府が2016年に「京都いのちの日」（3月1日）を定めたことを受けて同年から実施して5回目。本願寺派の考えに感動した。来年もぜひ参加したいと話した。

同行委員会の霍野門跡で意見交換会が行われた。今回はさらに広い視野でいのちについて考えようと、気候変動対策への政策提言や気候マーチなどを運営する今井絵里菜さん（神戸大学4年）と、再生可能エネルギーを利用した電力事業を展開する「TERA Energy」の竹本了悟さん（奈良県葛城市・本派西照寺住職）が、環境や気候変動の問題が子どもたちの貧困や



（80面）関連記事）